日本種苗新聞

消費者に受ける野菜探求

第170回品種見本市

都内の有機学校給食に動き

青果育種研究会（後藤正明会長、横浜丸中青果会長）は10月28日、東京都中央卸売市場大田市場で「第170回品種見本市」を開いた。高齢化による生産者の減少や近年の温暖化の影響で農産物の生産量が減少している。市場での取扱量も年々減少傾向にある中で、国内最大規模の同市場で実施された今年2回目の品種見本市は「タネ屋さんと連携しよう!」をテーマに種苗メーカーなど16社が出展。減少する消費者の野菜消費に対して生産者、種苗メーカー、サプライチェーンが一体になって対応する姿勢を示した。

出展各社の展示内容と強みを紹介する。

いままでない味提案

ナント種苗は業界初の甘酸っぱいスイカ「スイナップル」の種子販売に注力している。金色羅皇系統で、糖度は約14度になり、夏の暑さの中でさわやかさを強調、これまでにないスイカの味としての新しい価値感を投じる。来年春に1万粒を販売する。

今後、伸びが期待されるサツマイモ。初参加の三好アグリテックは新品種の表皮の白いサツマイモ「きみまろこ」を出品。果肉は黄色で甘く、加熱すると糖度が上がるネットリ系。鈴なりにイモがつき、貯蔵性が抜群であることをPR。

サツマイモ開発の先駆者カネコ種苗はしっとり系のサツマイモ「シルクスイート」に続き、2年前に発売したホクホク系の「栗かぐや」を展示、加工用にも対応を広げている。

一番人気はトマト

消費者の人気ランキング1位はトマト。タキイ種苗の大玉トマト「TTM177」は、生育は遅いものの、着果が優れ裂果と裂皮の発生が少なく、抑制作型に適した品種として出品した。

サカタのタネは大玉トマト「SC8-173」を黄化葉巻病に耐病性、極硬玉で日持ちがよく、作りやすい多収品種として出品した。

サナテックシードはゲノム編集した中玉トマトをパッケージ販売している「シシリアンルージュ　ハイギャバ」を展示。血圧上昇抑制効果があるGABA（ギャバ）を通常のトマトの約5倍以上多く含むように改良した品種で、合併前のバイオニアエコサイエンスが販売・流通を担っている。

品種改良だけでなく、遺伝資源の調査・収集とその利用技術開発などを研究している園芸植物育種研究所。ミニトマトでは、単為結果性で暑さに強く、ホルモン処理やマルハナバチが不要な「TYべにすずめ」を、9月の暑さの中、千葉で栽培したものを出品することでアピールした。

渡辺農事は、豆の色が黒みがかったエダマメ「黒の極み」を出品。黒豆独特の香りと旨味とコクを、播種後約80日で収穫できる早生品種であることをアピールした。少ないゼリーと厚い果肉のバランスが絶妙で、独特な食感を楽しめる一般のミニトマトより大きめの「ほれまる」も開発している。

世界初の抵抗性開発

萩原農場のアールス系メロン「アポロン」は、世界で初めて開発された退緑黄化病に抵抗性を持つ品種。メロンは国内では生産が減少しているが贈答用としての人気は依然と高く、購入率が最も高い果物で、世界的には需要は伸びている。

ヴィルモランみかどのイチ押しはネギの「夏柱（なつばしら）」。ネギは30℃を超える高温や温暖化による多湿に弱く、今年も生育不良や病害、欠株が発生し、収穫量が大幅に減少した中で「夏柱」は高温伸長性と肥大性に優れ、高温下でもよく育ち、夏場の残存率も高いことをアピールした。

ピーマンの需要は、生鮮品だけでなく、冷凍や加工品として加工食品の需要も高まっている。肉厚のパプリカだけでなく生鮮ピーマンの輸入も増加傾向にある中、横浜植木の種のないピーマン「タネなっぴー」は、調理が簡単で時間短縮できることや、苦みが少なく食べやすいことからピーマン嫌いの子どもからも受け入れられている。さらにパプリカ「シャウラ」「アルジル」などの国産パプリカの普及にも挑戦している。

育種目標は楽しい

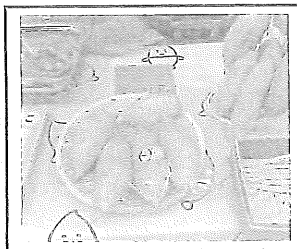
イチゴのようなかわいいハート型の甘くて肉厚なミニトマト「トマトベリー」や葉がフリルのように細れている「カリーノケール」、加熱するとトロケるようなねっとりした食感になる果皮が白いナス「とろ～り旨なす」など、普通とちょっと違う野菜を展示するトキタ種苗。育種目標を栽培して楽しい、食べて楽しい、面白いといったところに置いている。

オランダを代表する種苗会社ライク・ズワーン社の種子の輸入総代理店を務める高田種苗。キュウリ「リトラルRZ」は水分と種の部分が少なくサンドイッチなど業務用使用がピッタリの食材として紹介した。

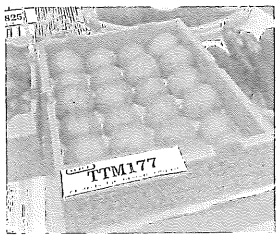
前回から参加している青果物専門の仲卸・大治は「ジャパンプレミアムオーガニック推進協議会」を設立、農林水産省の政策とも連携し、国内外での有機農産物の取り扱い拡大を目指している。今年2月に東京都品川区が学校給食での有機野菜の使用を宣言。全品有機に切り替えるには、学校給食特有のサイズ限定問題などもあり、問題解決に向けて主体となる方から支援している、との報告があった。

鮮度維持フィルム「P－プラス」を販売している住友ベークライトは袋に開けたミクロの穴で、ガス透過量をコントロールすることで鮮度を保つ原理を説明した。

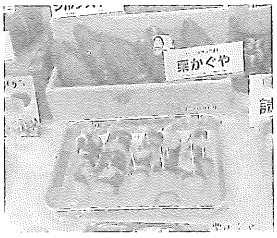
包装機械メーカーのヤマノは低価格フィルムの上に主に葉物を置くだけで、野菜を毎分10～15パック包装できるコンパクトな小型ピロー機「VPW－250」を展示した。区内の青果物販売店を後


「きみまろこ」（三好アグリテック）

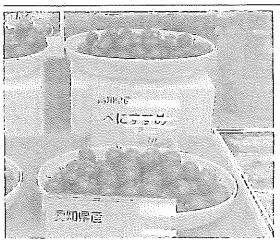
「スイナップル」（ナント種苗）

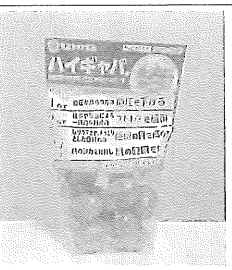


「TTM177」（タキイ種苗）

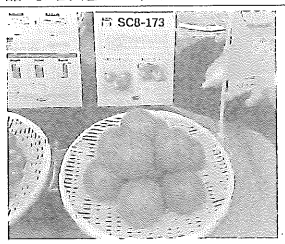


「栗かぐや」（カネコ種苗）

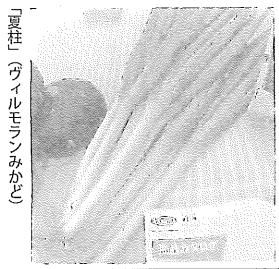

「TYべにすずめ」（園研）

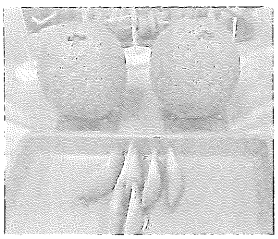


「シシリアンルージュ　ハイギャバ」（サナテックシード）

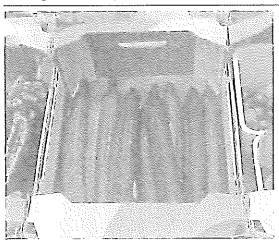


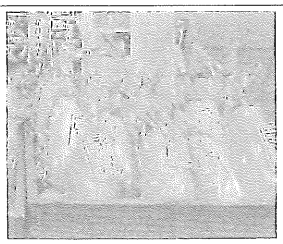
「SC8－173」（サカタのタネ）

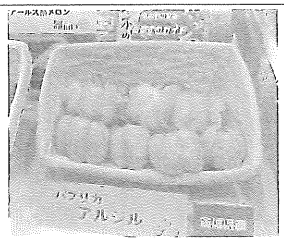

「夏柱」（ヴィルモランみかど）


「アポロン」（萩原農場）

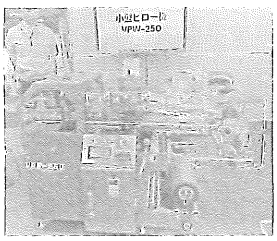
「黒の極み」（渡辺農事）


「リトラルRZ」（高田種苗）


「とろ～り旨なす」（トキタ種苗）



「アルジル」（横浜植木）



「VPW－250」（ヤマノ）

「P－プラス」の使用例（住友ベークライト）

オーガニック野菜（大治）

誠意と確実の表徴
フタバ印のタネ
感動と満足の種子
埼玉県久喜市野久喜1－1
野原種苗株式会社
電話（0480）21－0002(代)
FAX（0480）23－5005
タネは1番・デンワは2番
フタバ印